

2015年4月23日  
米国研究製薬工業協会

## 米メルク社 会長兼 CEO ケネス C. フレージャーが

## 米国研究製薬工業協会(PhRMA)会長に就任

ジョージ・A・スキャンゴス バイオジェン CEO および、  
ホアキン・デュアト ジョンソン・エンド・ジョンソンファーマシューティカルズ、ワールドワイド・チェアマンが  
新役員に就任  
PhRMA 理事長兼 CEO のジョン・J・カステラニが退任

※当資料は、米国研究製薬工業協会米国本部が、現地時間 2015 年 4 月 16 日に発表した報道資料の抄訳を日本でまとめたものです。

ワシントン D.C. 2015 年 4 月 16 日 : Merck & Co., Inc. (米メルク社)の会長兼 CEO であるケネス C. フレージャーが、米国研究製薬工業協会 (PhRMA : Pharmaceutical Research and Manufacturers of America) の理事会会長に選任されました。また、ジョン・J・カステラニ 理事長兼 CEO は、2016 年 1 月 1 日付の退任を理事会で表明しました。

### PhRMA 新役員を選任

フレージャーは、前 PhRMA 会長のイアン C. リード ファイザー社 会長兼 CEO の後任となることが予定されておりました。また、バイオジェン社 CEO のジョージ・A・スキャンゴスが PhRMA 次期会長に、ジョンソン・エンド・ジョンソンファーマシューティカルズ、ワールドワイド・チェアマンのホアキン・デュアトが理事会財務担当責任者に選任されました。

現理事長のカステラニは次のように述べています。「PhRMA は、大いなる喜びをもってフレージャーを会長として迎えることとなりました。また、昨年 1 年間に測り知れない貢献をしてくれたリードに対しては、お礼と感謝の気持ちでいっぱいです。命を脅かす疾患と闘うことに対してより狙いを定めた革新的な新薬の研究開発への会員企業からの投資は、この



数年間にかつてないほどまでに増大しました。バイオ医薬品研究業界において証明済みのフレージャーの指導力と豊かな経験は、PhRMA と会員企業にとってかけがえのない財産となることでしょう」。

フレージャーは 2011 年に米メルクの会長兼 CEO に就任するまで、同社社長として 3 つの主要部門（医薬品事業、製造、研究開発）を統括していました。また、2007 年から 2010 年にかけては医薬品事業の統括責任者、1999 年から 2007 年までは法務、広報およびメルク財団を統括しました。

1992 年、米メルク社に入社する以前のフレージャーは、フィラデルフィアのドリンカー・ビドル・アンド・リース法律事務所のパートナーを務めていました。現在は PhRMA での役職に加えて、ウェイル・コーネル大学大学院医学系研究科・医学部、エクソンモービル社、ペンシルベニア州立大学、フィラデルフィアのコーナーストーン・クリスチャン・アカデミーの取締役を兼任しています。また、ペンシルベニア州立大学で学士号、ハーバード・ロースクールで法学博士号を取得しています。

「私たちの業界は、緊急を要する困難な医学的課題に取り組む体制を確立すべく、最も有望な科学的躍進の成果を有意義な治療法として結実させることを目指して努力している段階にあると言えるでしょう。現在病気で苦しんでいる患者さんに治癒をもたらす未来の希望へと導くために、私たちは全力で取り組んでいきます」と、フレージャーは述べています。

続けてフレージャーは「患者さんを念頭に置いた発明と革新の推進という課題は、私が誇りを持ってその代表を務める医薬品業界の命題です。新しい役職は光栄であり、スキャンゴスとデュアトの新しい役職についても祝辞を述べたいと思います。私たちは、ヘルスケアに携わる全てのステークホルダーと協力し、すべての人々に有益で持続可能な価値あるヘルスケア・システムを構築するための政策環境を創出する所存です」と述べています。

スキャンゴスは 2010 年 6 月にバイオジェン社 CEO に就任。それ以前は、1996 年 10 月からエクセリクシス社にて社長兼 CEO を務めました。1987 年から 1996 年まで、バイエル社 R&D 部門シニア・バイス・プレジデントを務めた他、バイエル・バイオテクノロジー社の社長としてバイエル社の遺伝子組み換え医薬品の研究開発、事業開発、プロセス開発、製造、エンジニアリング、品質保証を手掛けるなど、様々な役職を歴任。バイエル入社以前は、ジョンズ・ホプキンス大学で生物学の教授職にありました。コーネル大学にて生物学の学士号、マサチューセッツ大学で博士号を取得しています。

スキャンゴスは次のように述べています。「科学が加速度的な進歩を遂げ、疾患の生物学的理解も深まる中、最先端技術を活用することで、世界でも治療がきわめて困難とされる病気の治療法開発に着実な進歩が生まれてきています。科学的発見を治療法としていち早く結実させ、患者さんの元へ届けること、さらには、そうした治療法を通じてより生産的で豊かな社会づくりに貢献すること、まさにこうしたビジョンを実現するための創造的な政策アプローチと課題解決が求められているのです」。

デュアトは、2011 年 1 月にジョンソン・エンド・ジョンソンファーマシューティカルズ ワールドワイド チェアマン医薬品グループ、ワールドワイド・コマーシャルオペレーションズ担当カンパ

ニーに就任。それ以前は、ジ・アメリカズ社のカンパニー・グループ会長、オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス社のカンパニー・グループチェアマンを歴任しています。1989年にジョンソン・エンド・ジョンソングループの医薬品部門であるヤンセン・シラグ・スペインに入社し、後にヤンセン・シラグ・イタリアのマネージング・ディレクターに就任。2002年にオーソ・バイオテック・オンコロジー・フランチャイズ社の副社長として米国に転任するまでは、オーソ・バイオテック・ヨーロッパを統括しています。2005年にはオーソ・バイオテック・プロダクツ L.P. の社長に任命。スペインのバレンシア出身のデュアトは、経済学の学士号の他に、バルセロナのエサデ・ビジネススクールとアリゾナ州フェニックスのサンダーバード大学にて、国際経営修士学で修士号を取得しています。

デュアトは次のように語ります。「医薬品事業の国際的展開により、世界規模の疾患をかつてないほど迅速に、より強烈に攻撃することができるようになりました。また、日々変化する疾病の本質をより深く知ることができるようになり、パイプラインの進化と拡大が促進されれば、米国および世界中の患者さんが治療という最強の武器で疾病と闘うための条件が更に整うでしょう」。

### カステラニ、退任を表明

2010年9月の就任以来 PhRMA を成功裏に牽引してきたカステラニが、理事長兼 CEO の職を退任します。理事会においては、フレイジャーがカステラニの功績に感謝の意を表しました。

フレイジャーの発言は次の通り。「PhRMA の理事会を代表して、この5年間に PhRMA でゆるぎない指導力を発揮してくれたカステラニに感謝したいと思います。バイオ医薬品研究企業の代表として、また私たちがサービスを提供している世界中の何百万もの患者さんにとって、彼は力強い提唱者であり続けました。カステラニの指導の下 PhRMA は、生命を救う治療薬の持続的開発を促す環境を守り強化するため、また、より健康に長生きするために必要な医薬品を患者さんが手に入れやすくするため、努力を惜しむことなく働いてきたのです」

「カステラニの指導力があったからこそ、今日 PhRMA はワシントンにおいて強くゆるぎない地位を得ていると言えるでしょう。彼の尽力に心から感謝するとともに、退任に際して彼の今後の幸運を祈りたいと思います」。

カステラニの後継者選びについてフレイジャーは、PhRMA 理事会の指名および報酬委員会が主導する形で直ちに着手することを発表。後任者探しを引き続き担当するのは、コーン・フェリー社。

フレイジャーは次のように述べています。「カステラニの在任中は優秀な経営に彩られていましたが、このような形でその彼の引退を発表するという事は、引き継ぎも順調に進むという自信の表れと受け取っていただいて構いません。理事会は、ジョンおよびその他の PhRMA 上級管理職チームと一丸となり、この機会に経営の継続性を確実なものとする所存です」。

カステラニは最後に語ります。「この5年間に職責を果たせたことは、私にとって名誉の極みでした。バイオ医薬品研究企業を代表するという重責は、私の生涯で最もやりがいのある経験の一つでしたし、患者さんの生活改善のためにメンバーのみんなが日々努力し取り組んできた素晴らしい成

果を本当に誇りに思います。フレージャーを始めとする理事メンバーの偉大なるリーダーシップ、また PhRMA および加盟企業の使命に尽力している勤勉で才能豊かで献身的な精鋭の存在がある以上、PhRMA は今後も安泰であると言えるでしょう」。

●米国研究製薬工業協会(PhRMA)

PhRMA は、米国で事業を行なっている主要な研究開発志向型製薬企業を代表する団体です。加盟企業は新薬の発見・開発を通じて、患者さんがより長く、より健全で活動的に暮らせるよう、先頭に立って新しい治療法を探求しています。加盟企業の新薬研究開発に対する投資額は、2000 年からの累計では 6000 億ドル以上に達し、2014 年単独でも推定で 512 億ドルになりました。

●米国研究製薬工業協会(PhRMA)東京オフィス

PhRMA 東京オフィスは、米国の研究開発志向型製薬企業の日本法人で構成されており、画期的新薬が開発できる環境や患者さん中心の医療制度の確立に向けて 25 年以上に渡って活動を続けています。加盟企業は、アステラス・アムジェン・バイオフーマ株式会社、アツヴィ合同会社、MSD 株式会社、セルジーン株式会社、日本イーライリリー株式会社、バイオジェン・アイデック・ジャパン株式会社、ファイザー株式会社、ブリistol・マイヤーズ株式会社、ムンディファーマ株式会社、ヤンセンファーマ株式会社(五十音順)の 10 社です。

- PhRMA 東京オフィスホームページ <http://www.phrma-jp.org>
- PhRMA ホームページ <http://www.phrma.org>

【本件に関するお問い合わせ】

米国研究製薬工業協会(PhRMA)広報事務局  
(株式会社ジャパン・カウンセラーズ内)

TEL: 03-3291-0118

FAX: 03-3291-0223

E-mail: [phrma\\_pr@jc-inc.co.jp](mailto:phrma_pr@jc-inc.co.jp)

〒101-0065 東京都千代田区西神田1-3-6 ウエタケビル4F